ISAF・ORC 2015年 年次総会 報告

J S A F 国際委員会
オフショア担当
小 林 昇

2015年の年次総会は、ISAFが11月6日から14日、ORCは7日から11日まで共に中国の三亚で開催された。私は8日午後の到着から13日朝の出発まで滞在し、ISAFの外洋関係委員会の出席・傍聴と、ORCの2つのミーティングに出席した。JSAFからは外洋系として植松 眞副会長・国際委員会の鈴木一行氏と私、計測委員会から角晴彦氏の4名が出席し、国際委員会から大谷たかお氏と柴沼克巳氏、ルール委員会の田中正昭各氏に加えてオリンピック対応として入部 透氏と斎藤愛子さん、穂坂氏と山田 寛氏、障害者関係で2名が出席され、多数のデリゲートとなった。ORCANからは今年も出席はなかった。

8日 ISAF及びORCに参加登録後、各所挨拶。

外洋系の4名が夜に揃った所で翌朝のORCと会談に備えて情報交換を行い、ORCANとの関係に付いて会合を持った。

9日 9:00からORCのフィンチ会長、他マネージメントの2名とJSAF外洋から植松副会長以下4名で会談。昨年度にORCに申し出たORCAN問題解消の方向性確認を行い、ORCANからJSAFに管理を移管する事が合意された。

夜はORCディナーに4名で出席。

10日 <スペシャルレギュレーションサブコミッティー>を傍聴。

夜は<ロレックスISAFワールドセーラーアワード2015>に出席。

11日 ORCのコンGRESとしてEGM(午前)とAGM(午後)に出席。

夜は、三亚市の歓迎ディナーに出席。

12日 <オセアニックアンドオフショアコミッティー>に委員として出席。

13日 朝、大阪に向けて出発、同日夜に関西空港に帰日。

海南省にある三亚市は、香港の南西の大きな島の南部に開発されている海浜リゾートで、ボルボオーシャンレースのストップオーバー地点となりそのレースにも中国からエントリーする事で一挙に外洋セーリングの世界に知られるようになった。又、中国は北京オリンピックや2014年に青島でISAFセーリングワールドカップを開催し、セーリング世界での存在を近年一挙に拡大して来た。

<スペシャルレギュレーションサブコミッティー> -傍聴

カナダのウイリアボット委員長氏のリーダーシップで、ワーキングパーティーからの報告とサブミッションの検討がなされた。

主要な点は、

1. 来年1月1日発効のSRは、より判り易い表現に書き換えられ、7月にはコンピューターやスマートフォンを使用した閲覧が可能となる。
2. 改定前に、ここ数年展開されて来たワーキングパーティーからの報告とサブミッション提出が出され、幾つかの変更が成された。
3. Cat-5と6がインショアレースと提議づけられ、Cat-4以上との区別が明確となった。
4. パラシュートフレア等の火薬類が削除、軽減された。

5. 落水者の対応について多くの提議が出され、ライフジャケットを初めパーソナル AIS, リカバリースリング（ライフスリングを改名）等の装備やリカバリー方法とそのトレーニングに関して多くの改訂が成された。
6. ダイナミックライフラインの信頼性について、耐久性の実験が成されその報告があった。
6. オフショアメディカルワークショップの口頭に依る報告があった。

改正の多くはカテゴリ0から3についての項目であるが、日本で主流であるカテゴリ4とそれ以下のインシディアレスについても、ライフジャケット等に付いて JCI 検査を充足する装備をもって可として良い物かどうかをもう一度見直す必要があるかも知れない。

＜オセアニック・オフショアコミッティー＞ -委員として参加

USA のオフショア事項を全般的に統括する機関で、特にスペシャルレギュレーションサブコミッティーの討議内容はカウンスルに上げずに最終決定をする重要な委員会である。従来エンピリカルハンディキャップサブコミッティーを包括していたが、本年の委員会再編成で解消されてその管理を現在のワーキングパーティーと ISAF スタッフとで継続する事となった。

討議された主要な内容は以下の通り。

＜ユニバーサルメジャメントシステムの進展＞

UMS (Universal Measurement System : ORC と RORC と USセーリングの三者で、統一のメジャメント申告フォームを作り、どのレーティングの取得を希望するオーナーもこの3者による共通フォームに記入する事で申告を可能とし、各レーティング事務所はこの申告書のデータをデジタルで共有して各レーティング証書を発行する)。データベースの共有には艇の計測に関するパラメーターの定義付けが必要で、ERS を管理しているエクイップメントコミッティーも関与して作業が進められている。本年度までにセールに関する部分が完了し、今後リグや艇隊、アペンデージ等に継続して取り組み、究極的には各艇にはその、パスポートを持たせる事にある。

＜ISAF オフショアセーリングインシデントインベスティゲーションパネル＞

ISAF のテクニカルスタッフによって進められているが、事実情報の入手は保険会社等の障害もあり困難であり、ISAF の管理する OSR や艇構造の規定と事故との関連性を主に検証して行く事が今後必要で、個人と団体のパネルメンバーを持ち情報収集に努めたい、との事。

＜OSR サブコミッティーとエクイップメントコミッティーからのサブミッション討議＞

OSR サブコミッティーのサブミッションの報告は全て承認された。

エクイップメントコミッティーの ERS についてのサブミッションの報告も全て承認された。

＜ISAF レギュレーション 25.5 のレーティングシステム世界選手権＞

IRC にも ORC と同様に、世界選手権の開催権を与えて欲しいという IRC からの提議については、却下した上で、ISAF の支持の元で両者がワーキングパーティーを作り3年を目処に ISAF Offshore Team World Championship を含む世界選手権開催について検討する事になった。UMS が進む中でこの議題は注目を集めていたが、両者の対立を避ける処置となったようだ。

＜レーティングシステムからの報告＞

＜IRC からの状況報告 5 1 2 3＞

RORC から IRC の状況報告があった。証書発行数の推年8月末では5,123で、これと比較して本年同期は4,958と減少傾向は続く状況であった。これは経済状況の影響を受け続けているとした。

日本では昨年度末の313に対して8月末で300と迫っており、前年同期の293に対しては増大して世界で7番目の国を維持している。発行証書枚数の比較だけでIRCはORCとの比較で世界的な支持を失いつつあると考えるのは早計で、両者の発行証書数のカウント方法の違いやORCは多くのプロモーションでの無料証書も含まれている事に注意が必要。 * ORC の状況は ORC コングレス報告の項で記載。

＜ORCコングレス＞ -コングレスとして植松副会長と共に参加

ISAFと並行して、ORCの各委員会も開催される。ORCの各委員会の報告を受けて、11日朝から各国のコングレスだけのミーティングがあり（EGM）、その後オープンAGM（年次ゼネラルミーティング）が開催された。

ORCの2015年の証書発行状況（ORCiとclubの合計数）

主要な国は依然として堅調なイタリア、スペイン、ノルウェー、ドイツで、この4国で全体の約72%を占めている。日本では最盛期の2006年にORCクラブで358であったが本年は8月末の64で、無償で証書が発行されるプロモーションが2014年に終了し、半減した事になる。ORCinternationalも昨年の14から8に減少した。関西ヨットクラブはORCiとIRCのデュアルスコアリングを2016にも続ける意向があるようだ。今回、JSAFでORCルールを管理に移管されると、日本でのORCのレースをある程度プロモートする必要も出てくると思われる。

- ・ バルセロナで開催されたORC世界選手権には22カ国から100隻が参加等、欧州を中心に多くのメジャーなレガッタが好調に開催された。
- ・ スポーツボートルールに加えて、全長30m以上のスパーヨットルールが開発されORCルールの利用拡大が計られており、来年はX-Yachts Gold CupやSWANカップ等にも利用されるようで、ORC導入期にある國でのレーティングセミナーの開催等を含めてマーケティングが上手いと言えよう。
- ・ 役員の変更があり、フィンチ会長、シニョリ計測委員長、ビビアン秘書が再任された。
- ・ 植松副会長と、私のコングレス任期は来年の2016年で終了する。

その他：

- ・ <ロレックスワールドセーラーアワード2015>は、男子ではNZの49er世界チャンピオンPeter Burling & Blair Tuke チームが、女子では英国の2度のオリンピックゴールドメダルと女子では唯一のエクストリームセーリングシリーズ参加のSarah Aytonが本年のワールドセーラーに選ばれた。

添付：1、スペシャルレギュレーションサブコミッティーの暫定議事録（英文）

*オセアニック&オフショアコミッティーはこれを承認した。

2、オセアニック&オフショアコミッティーのカウンシルへのリコメンデーション（英文）

3、ORCのISAFへの報告書（英文）

4、IRCのISAFへの報告書（英文）

5、旅費清算書

以 上